

## 地理歴史科（世界史探究）学習指導案

## 1 単元名 西ヨーロッパの封建社会とその展開

「C 諸地域の交流・再編」の「(2) 結びつくユーラシアと諸地域」(ア)を想定して作成

## 2 単元目標

- (1) ヨーロッパ封建社会とその展開などについて理解する。
- (2) ヨーロッパ封建社会とその展開に関する資料を読み取ったり、まとめたりする技能を身に付ける。
- (3) ヨーロッパ封建社会とその展開の特色などを多面的・多角的に考察し、表現する。
- (4) ヨーロッパ封建社会とその展開について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

## 3 単元計画(全体5時間)

## (1) 指導計画

- ・教会の権威と叙任権闘争 1時間
- ・十字軍の展開とその影響 1時間
- ・商業の復活と発展 1時間
- ・中世都市の成立と発展 2時間（本時1/2）

## (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ封建社会とその展開などについて理解している。</li> <li>・ヨーロッパ封建社会とその展開に関する資料を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ封建社会とその展開の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ封建社会とその展開について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>

## (3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準	評価方法
			知	思	態	(C) 具体的支援	
第1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中世の西ヨーロッパ封建社会の概要</li> <li>・教会の権威</li> <li>・叙任権闘争</li> </ul>	<p>【ねらい】西ヨーロッパ封建社会に対する興味・関心を高めるとともに、教会が普遍的権威をもった背景と叙任権闘争の展開について理解する。</p> <p>・諸資料を基に、教会の権威と叙任権闘争について表現する。</p>	●		●	(B) 西ヨーロッパにおいて、教会が普遍的権威をもった背景と叙任権闘争の展開について記述している。	・ワークシート①
						(C) 個別に助言する。	
第2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十字軍の背景</li> <li>・十字軍の影響</li> </ul> <p>【学習課題】〈問い〉「十字軍はその後の西ヨーロッパにどのような影響を与えたのか」</p>	<p>【ねらい】諸資料を基に、十字軍の背景とその影響について理解する。</p> <p>・諸資料を基に、十字軍の背景とその後の西ヨーロッパへの影響について表現する。</p>	●		●	(B) 十字軍の背景とその後の西ヨーロッパへの影響について記述している。	・ワークシート②
						(C) 個別に助言する。	
第3次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業の復活</li> <li>・各商業圏の発展</li> </ul> <p>【学習課題】〈問い〉「西ヨーロッパでは、どのように商業が盛んになったのか」</p>	<p>【ねらい】資料を基に、商業の復活と各商業圏の発展について理解する。</p> <p>・資料を基に、商業の復活と各商業圏の発展について表現する。</p>	●		●	(B) 商業の復活と各商業圏の発展について記述している。	・ワークシート③
						(C) 個別に助言する。	

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第4次	・中世都市の成立の背景・特色・課題 【学習課題】〈問い〉 「中世都市とは?～ギルドを通して考える成立の背景・特色・課題について～」	【ねらい】資料を基に、中世都市の成立の背景・特色・課題について考察・表現する。 ・中世都市に関する資料から、中世都市の成立の背景・特色・課題について表現する。	○	●		(B) 中世都市の成立と発展について記述している。 (C) 個別に助言する。 5 (1)参照【知】	・ワークシート④(1) ・ワークシート④(2)
	【学習課題】〈問い〉「中世都市の内政と外交どのように発展したのか」 〈単元を貫く問い〉「西ヨーロッパの封建社会とはどのような社会で、どのように変化したのだろうか」	・イタリアの自治都市 ・中世都市の都市同盟 ・西ヨーロッパの封建社会とその展開	【ねらい】諸資料を基に、中世都市の内政・外交について理解する。 【ねらい】単元を貫く問いについて、学習成果を踏まえて考え、追究する。		○	○	5 (2)参照【思】 5 (3)参照【主】

## 4 本時の指導と評価の計画

## (1) 本時の目標

ア 中世都市の成立に関する資料を読み取りまとめる。

イ 資料を基に、中世都市の成立の背景・特色・課題について考察し、表現する。

## (2) 本時の展開

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	・中世都市リビューバックの調査 ・中世都市の景観	・中世都市リビューバックの航空写真から気付いたことをワークシートに記入する。 ・中世都市との共通点を考え、景観上の特色である城壁と中心に位置する教会の存在を理解する。	●活動状況【知】【思】 ・代表生徒の発表内容をまとめ、中世都市の景観について指摘する。 ・本時の問い「中世都市の成立の背景・特色・課題」を発問する。
展開	・資料について各自で読み取り ・資料についてペアワーク ・資料についてグループワーク ・全体での共有	・配布資料（資料①～④）について考察する。 【ペアワーク】 ・資料から読み取ったことを報告しあう。 【グループワーク】 ・ペアワークの結果を共有する。 ・資料を基に、『中世都市の成立の背景・特色・課題』について考察する。 【発表】全体で情報を共有する。	○ワークシート④(1)【知】 ・隣同士でペアになるよう指示する。 ・違う資料を配布された生徒が混在するように1グループ4人に分ける。 ○ワークシート④(2)【思】
まとめ	・中世都市の成立の背景・特色・課題についてのまとめ	・本時の学習のまとめをワークシートに記入する。	・各グループの発表を適宜補足して、発表内容をまとめる。

## (3) 本時の評価規準 5 (4) (5) 参照

## 5 評価問題（評価材料）及び評価規準

## (1) ワークシート④(1)の評価規準【知識・技能】

中世都市に関する資料を読み取りまとめている。

ワークシート④(1)の内容

- |                           |
|---------------------------|
| ・中世都市の成立に関する資料を読み取り，まとめる。 |
|---------------------------|

ワークシート④(1)の判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・中世都市の成立に関する資料を読み取り，記述している。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・中世都市の成立に関する資料を読み取り，他者に分かりやすくまとめている。
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導
・中世都市の成立に関する資料を読み取ることができない。→個別に助言する。

## (2) ワークシート④(2)の評価規準【思考・判断・表現】

資料を基に，中世都市の成立の背景・特色・課題について考察し，表現している。

ワークシート④(2)の内容

- |  |
|--|
| ・問い「中世都市とは？～ギルドを通して考える中世都市の成立の背景・特色・課題～」 |
|--|

ワークシート④(2)の判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・中世都市の成立について，資料を基にその成立の背景・特色・課題について考察し，そのうち二つの視点を表現している。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・中世都市の成立について，資料を基にその成立の背景・特色・課題について考察し，そのうち三つの視点全てを表現している。
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導
・中世都市の成立について，資料を基にその成立の背景・特色・課題について考察し，そのうち一つの視点のみしか表現することができない。→個別に助言する。

## (3) ワークシート⑤の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

単元を貫く問いの答えを，学習成果を踏まえて考え，追究しようとしている。

ワークシート⑤の内容

問い「西ヨーロッパの封建社会とはどのような社会で，どのように変化したのだろうか。」
---

ワークシート⑤の判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・単元を振り返って理解したことを整理し，新たな課題を見だし，事後の学習に意欲的に取り組もうとしている。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・単元を振り返って理解したことを体系化し，新たな課題（問い）を見だし，その問いへの仮説を立て，事後の学習に意欲的に取り組もうとしている。
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導
・単元は振り返ったが，理解したことを整理できない。→個別に助言を記入する。
・新たに取り組みたい課題が考えられない。→個別に助言を記入する。

## 6 成果と課題

今回は難易度が高い資料の読み取りと考察を中心とした授業をした。予想どおりに，生徒が一人で内容を読み取り，考察するのに苦勞をしていた。しかし，ペアワーク・グループワークを取り入れることが資料の正しい読み取り，深い考察につながっていることが確認できた。このことが大きな成果であった。また今回の授業におい

ては、知識・理解についてどちらかというと苦手な生徒が、ペアワーク・グループワークに積極的に取り組み、鋭い考察と記述をしている場合もあり、生徒を多面的に評価するという点においても有効であった。また、今回の授業ではICT機器を活用して現在の都市景観を調査した。普段の授業ではあまりICT機器は活用していないため、生徒たちにとって新鮮であったようでとても生き生きと活動し、また「わぁ」「すごい」「本当だ」という声が聞こえてきた。ICT機器の活用で理解度が高まるだけでなく、予想以上に授業に抑揚ができることが確認できた。生徒たちがさまざまな手法で学ぶことを今後も継続したい。

上記のように多くの成果や気づきがあった授業実践であったが、たくさんの活動を盛り込みすぎてしまい、話し合いが深まっていないペア・グループが見受けられた。資料を基に深く考えさせたい授業であるため、欲張らずにもう少し焦点を絞って計画をすればよかった。ワークシートについて、記述する部分のみで実践したが一人での資料読み取りには苦戦してほとんど記述できていない生徒もいたため、空欄補充の問いや、選択肢から選ぶ問いなど自由記述の前にスモールステップを設定すると、資料読み取りが苦手な生徒も途中までだとしても自分自身で考えることができたと思う。この反省を踏まえて、今後は多様な生徒に対応できるワークシートに改良したい。

## 7 参考文献

- ・『世界史資料上』（九里幾久雄他 東京法令出版 1977年）
- ・『世界史のミュージアム』（星沢卓也 東京法令出版 2021年）
- ・教科書『詳説世界史』（山川出版社）
- ・資料集『ニューステージ世界史詳覧』（浜島書店）